

プロジェクト横断トーク

Cross-talk on Project

これまであまり互いの活動内容を知る機会が無かったプロジェクト同士。それぞれの成果や課題を共有しようということで、『イベント』をテーマに B4 原を聞き手に M1 瀬川・高梨・道喜で語り合いました。

text_hara

2013年10月20日、港周辺の空間資源やイベントを巡るスタンプラリーを開催。一環として地元大学と共に港らしさを伝える展示等を実施した。港全体の回遊性向上と共に港の魅力を市民に発信することが目標。雨天時の対応と、イベントの趣旨が伝わらなかったことが課題。（道喜）

清水みなと散歩



2013年11月2・3日、子どもたちにまちあるき・クイズ・町家でおじいさんの話を聞く・昔の遊びを路地で実践してもらった。空洞化するまちなかに子供の遊び場を取り戻すためのまちなか型の遊びのメリットを明らかにすること、親御さんとのつながりを得ること、お年寄り
さがそう！
まちなか
あそびのタネ
と小学生の間に接点を作ることが目標。（高梨）

吉里吉里ギャラリー

2013年8月22日～25日、震災以前の写真・航空写真を拡大印刷したものを展示し思い出マップのバージョンアップを兼ねたヒアリング、ギャラリートーク（郷土芸能、写真解説、吉里吉里語）「吉里吉里の住まい」パンフレットの配布を行った。吉里吉里の人々に震災前の暮らしを再認識してもらうこと、過去の三陸津波でどのような復興計画があったのかを認識してもらうことが目標。（瀬川）



清水×佐原×大槌

『イベント』はどのプロジェクトにもつきものですが、今回はイベントを行う理由・課題・気をつけるべきポイントなどを3プロジェクトで共有して、今後に活かしていきたいと思います。

原 まずはイベントの課題として3プロジェクトに共通して成果の検証や立証が難しいという点があげられたけど、それについてはどう思う？

高梨 イベントって多分表の理由と裏の理由があると思う。表の理由がまずあって、裏の理由は東大を含めて地域で人のつながりができるとか今後の協力関係ができるとか、まちづくり的な目標がやること自体にあって、でもそれだけに固執しちゃういけない。まちづくりのためのまちづくりやってるわけじゃないから裏の理由はサブ的な要素として、表の理由をいかに評価するかみたいなところかなと思う。

瀬川 表の理由はこっちが考えてからイベント用意してやるけど、最初の目標設定を高くするから基本的に立証できないというのがイベントの特性だと思う。こっちはみんなに知ってもらって震災前の暮らしを理解して踏襲してほしいなという思いがあるけど、そこまで伝わるかっていうのと、伝わったところでみんながやってくれるのかはわからない。

高梨 多くの場合の目標って、何かを理解してもらおうとか周知するとかじゃない？

道喜 具体的にどれほど市民の人にみなとの楽しさだとか空間が伝わったかというのは、計れないと思う。でもどうにかして評価していかないといけないし、目標が無いと本当に本気になれないところがあって、とりあえずは来場者数を目標にしてやったんだけど、それもそれで安易すぎるというかも

うすこし工夫できたんじゃないかと思ってる。

高梨 意識が変わったかどうかなんだよね。それをどうやって評価しようかってことだよな。

瀬川 アンケートも、その場だから。イベントが終わってから3ヶ月たった後もまだ同じ思いでいられるかということは計れない。その場で意識が変わってもすぐに戻っちゃうことがあるから。でも大学もあんまり現地に行く時間ないから、イベントみたいなのが一番効率的なんだよね。入り口はわかりやすいけど出口が難しいね、イベントって。

原 イベントをする際に今後気をつけることは？

瀬川 日時、天候。

高梨 広報とかですか。広報に力注がなすぎかな。

瀬川 だと思う。だって広報が無いとイベント自体が認知されないし。内容が大事だって気持ちもわかるけど、広報が多分まず大事。

高梨 早めについていうのができてないってのもあるかな。

瀬川 やらうって決めるのが遅いのかも。広報のノウハウを共有する必要があるね。これからの課題ということで。



『222』プロジェクト始動！

The Room 222 Project Started up!

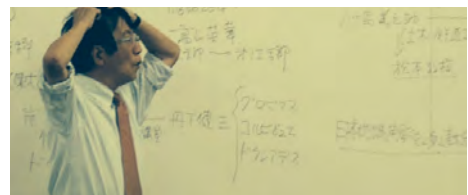
学部4年 益邑 明伸



▲「222 End Year Party」の様子

——扉が開いていたので入ってみると、伊藤滋先生が都市工学科創設時のエピソードを熱弁していたり、公開の研究室ゼミが行われていたり、ジャズが流れる中、学生と先生が地ビール片手に恋バナをしていたり——そんな不思議な部屋が工学部14号館の2階にできました。その名は「222」。

元はコンピュータ室だった部屋が、コン



▲「都市工学のはじまりと未来」という題で講演する伊藤先生。壁一面がホワイトボードになっている。

ピュータを移し、床と天井を剥がしたことで、新しい空間として昨年11月に生まれ変わりました。「知的好奇心を刺激する場」、学科や学年などの「壁を超える場」をコンセプトに、イベントや交流の場所として主に学生が運営していく予定です。

既に講演やゼミ、ワークショップなどが行われていますが、ここでは昨年12月の授業最後の日に行われた初の学生企画イベント「222 End Year Party」をご紹介します。ピザやお寿司、川越のコエドビールや「製図板卓球台」などを用意し、ジャズを流した部屋で、多くの人が集まってくださいました。都市工に來たばかりのB2やまち大生、春に院に進学する他学部のB4や先生方に至るま

222
END
YEAR
PARTY

好きなものを
自分で選んで買う
スタイルです
いつまでもいつまでも
雰囲気を楽しむだけでも
卓球台も置きますので
打ち合いたい方大歓迎！
もちろん無料です

2013
12/20
Fri.
19:00-

美味しいもの集めます。
卓球できます。

▲「222 End Year Party」のポスター

で「壁を超えた」おしゃべりを楽しみました。特に計画系のB2、B3は演習のジュリー後ということもあって、部屋は開放感に溢れていました。

今後も硬軟様々なイベントが222で行われます。イベントのお知らせや過去のイベントの様子は www.facebook.com/222DUE をご覧ください。運営を担う学生も募集しています。



ルンビニプロジェクト

Lumbini-project
プロジェクト

text_takanashi

黒瀬助教とM1高梨で1月10日(金)から1週間ほど、ネパールの出家するまでのブッダの城、ティラウラコットに調査に行ってきました。大忙しな1週間でした。次の3年間の調査計画の調整を行うつもりで2人のみで行ったものの、着くなり遺跡の直近のお堀の跡の上に駐車場が建つ計画、遺跡が残っている上に歩行者道路を作る計画、政治的理由で早く使うべき資金と三つ、直ちに代替案または計画が必要とされる課題が知らされました。一足先に現場に入っていた考古学チームは現在使用されていない日本の宗教団体が建設したお寺を借りて、現地の料理人一家を雇い住み込みで発掘していました。私たちも一室をお借りし、毎日調査と計画をし続けました。大変だったものの、緊迫した空気で随時発掘情報が入ってくるなか計画するのはとても刺激的で、最後にいただいた感謝の言葉に素直に喜べる、貴重な経験をすることができました。



▲発掘現場でのお昼はカレー



▲提案したゾーニング計画



清水プロジェクト

Shimizu-project
プロジェクト

text_douki

1月22日(水)、23日(木)に黒瀬助教、M1道喜、新領域M1望月が静岡と清水に訪問しました。22日には静岡で4大学合同公開講座の第2回が「アート・デザインで街を彩ろう！」というテーマで行われました。公開ワークショップでは常葉大学や茨城大学、市民の方々と一緒に静岡の都市構造や歴史を学ぶまち歩きを行い、その後のグループワークでは静岡の魅力を引き出す施策を考えました。また、パネルディスカッションでは、映画館跡地を活用し、アートなどで賑わい創出を目指すプロジェクト、アートサキセブンの経緯をお話いただく中で、商店街やアーティストの方々の静岡への熱い思いを聞くことができました。

23日には、2月23日(日)に予定されているまち歩きイベントの下見として、港湾管理局の方のご厚意で洋上視察をさせていただき、海から見た清水港を経験することができました。



▲アートサキセブン



▲海から見る日の出埠頭

Information

1・2月の予定

1月25日～26日	大槌PJ現地調査
2月6～7日	修士論文審査会
2月13日	清水PJ現地訪問
2月17日～18日	卒業論文審査会



✧ 編集後記

原 由希子

みなさま、遅ればせながら明けましておめでとうございます。私は元旦に毎年行く神社でなんと凶を引いてしまい、おまけに三が日は風邪で寝込み…なんだか不穏な年明けでした。今回の号ではプロジェクト横断トークで初の司会役をやったのですが、話題転換が難しく思っていたような話の流れにはならず、台本があるとはいええさんまさんのすごさを改めて感じさせられる体験となりました。見習いたいです。